

令和8年度 学校関係者評価 中津市立深水小学校

評価判断基準
 A …達成率90～100%
 B …達成率70～ 89%
 C …達成率60～ 69%
 D …達成率60%未満

- 学校の教育目標
 ともに学び 未来をひらく 深水っ子の育成
- 育成を目指す資質・能力
 自己調整力 ・ 協働的思考力
- 重点目標・達成指標、重点的取組等

	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く知識・技能の習得	基礎基本の定着（もっと学びたい）	①国語・算数の単元末テスト漢字80%以上 言語80%以上 ②「授業がわかる」と回答する児童が90%以上	学校	◇児童が「学ぶことが楽しい」と実感できる授業づくり ◇個別最適な学びの保障		○少人数のよさを生かし、一人ひとりの学習状況を把握しながら、個に応じた指導が行われている。音読や朝学習、AIドリル等を活用した繰り返し学習についても継続した取組が見られる。 ○漢字や言語に関する基礎的な力については、児童によって定着状況に差が見られる。学力調査等についても、学校全体の数値だけで判断するのではなく、一人ひとりの誤答やつまずきを丁寧に分析し、その後の指導に生かすことが重要である。 ○家庭学習や基本的な生活習慣も学力の基盤となることから、家庭との連携を継続してほしい。 ○学校の朝の投稿について、見守りを毎日継続できている。
			家庭 地域	◇基本的な生活習慣の確立 ◇学習への積極的支援	A	【今後に期待すること】 ■基礎基本の確実な定着に向け、一人一人のつまずきを把握した個別指導を継続するとともに、家庭と連携した学習習慣づくりを進めてほしい。 ■あいさつ運動は参加者が固定化しているため、老人会等にも声をかけ、より多くの地域住民に参加してもらえるよう周知を工夫してほしい。
	協働的に課題を解決する力の育成（もっと貢献したい）	③「友だちと一緒に学ぶのが楽しい」 ⇒80%以上 ④「失敗しても、あきらめずに挑戦している」 ⇒90%以上 ⑤学習や活動の振り返りを「みんなの前で発表することができる」 ⇒80%以上	学校	◇協働的な学びの時間の充実 ◇背伸び活動の推進	A	○「授業がわかる」と感じている児童が多く、少人数を生かした丁寧な授業づくりが行われている。また、発表や振り返りなど、自分の考えを表現する機会も設定されている。 ●限られた時間の中で自分の考えを文章にまとめたり、多様な考えに触れて自分の考えを深めたりする経験については、さらに充実させる必要がある。 ○少人数であることを弱みとするのではなく、地域の方々の知識や経験、他校との交流、ICT等を活用することで、多様な考えに出会う学習を工夫してほしい。特に理科などでは、地域の自然や生活と学習内容を結び付けることで、学ぶことの楽しさや有用感につながると考える。
			家庭 地域	◇各教科・総合的な学習の時間、特別活動等への学習支援	A	【今後に期待すること】 ■「問いをもつ・考える・伝える・振り返る」学習を積み重ねるとともに、地域人材やICT等を活用し、少人数でも多様な考えに触れられる学習環境をつくってほしい。
	協働的に課題を解決する力の育成（もっと貢献したい）	⑥「友達と協力しながら、すすんで学んだり運動したりしている」 ⇒90%以上 ⑦「地域や家族のために役に立っている」 ⇒80%以上	学校	◇児童会活動を通した自主的・創造的な活動の推進 ◇豊かな体験活動の充実	A	○学校生活や地域行事の中で、上級生が下級生の世話をしたり、高齢者に優しく接したりする姿が見られ、子どもたちの思いやりや優しさが育っている。 ○登校時のあいさつや地域行事への参加など、子どもたちの存在そのものが地域の方々の喜びや元気につながっている。子どもたちは「地域から支えてもらう存在」であるだけでなく、「地域を元気にしている存在」でもある。このことを子ども自身にも伝え、自分が地域の一員として役に立っているという実感につなげてほしい。 ●今後も地域行事への参加や地域の方との交流を通して、異なる世代の人と関わり、協力して活動する経験を大切にしてほしい。
			家庭 地域	◇家族の一員としての役割分担の明確化 ◇深水子ども応援団活動の継続	A B	【今後に期待すること】 ■地域で見られる子どものよさを学校・家庭・地域で共有し、積極的に認め、褒めることで自己有用感を高めてほしい。また、地域の中で子どもが役割をもち、挑戦したり協力したりする機会をさらに充実させてほしい。
働き方改革の推進	子どもと向き合う時間確保のための「業務改善」	【共通項目】ストレスチェックの健康リスク（量・コントロール）の値を10以下 ⑧時間外在校時間平均月28時間以内	学校	◇会議時間内の効率的運営	B	○地域と学校とのつながりは深く、登下校の見守り、あいさつ運動、学校行事、地域行事など、様々な場面で地域の協力を得ながら教育活動が行われている。 ○一方、あいさつ運動等では参加者が固定化している。老人会等を含め、より幅広い地域住民に参加を呼びかけるなど、周知方法を工夫していくことが望まれる。
			家庭	◇サポーターとしての保護者主体の活動	A	●公民館行事などで子どもたちが地域の方と活動している姿について、可能な範囲で教職員にも見てもらいたい。職員数が少なく、出張や校務等もあり、全ての活動への参加は難しいが、学校と地域が互いの活動を知り、子どもの姿を共有することは大切。
			地域	◇学校運営協議会の充実 ◇PTA準会員としての学校支援	A	【今後に期待すること】 ■学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担いながら、無理なく継続できる協働体制をつくってほしい。■地域での子どもの姿を学校教育に生かすとともに、学校での成長を地域へ積極的に発信し、双方向の連携をさらに深めてほしい。
				○各種資料の電子データベース化による事前共有 ○各種活動や行事等の来年度用の直後プランの作成 ○会議は水曜日14:45～、上限を60分以内に設定		
				○保護者は学校行事を把握し、面談や連絡メール等で日常的に連絡・調整を行う。		
				○各種会議では、建設的な意見等で形成を図る。 ○毎月8日の三光あいさつ運動に参加したり登下校の見守りをしたりする。 ○積極的に学校の活動に参加する。		